

報道機関各位

公益財団法人東北活性化研究センター
「内閣府 景気ウォッチャー調査 平成24年3月東北分
(新潟を含む東北7県)」について

公益財団法人東北活性化研究センター（会長：高橋宏明・東北電力㈱取締役会長）は、このほど、「内閣府 景気ウォッチャー調査 平成24年3月東北分(新潟を含む東北7県)」についてとりまとめましたのでお知らせいたします。

【基調判断】

- 今月の基調判断…東北地域の景気は
「復興関連を中心に持ち直しの動きが続いている」
(上方修正)

- ・現 状…長引く寒さが客足や春物の動きに影響したほか、原油価格高騰や製造業での工場閉鎖等の影響が一部にみられる。一方、復興関連の需要が続いていることに加え、年度替わりの季節需要とエコカー補助金効果等による新車販売に動きがみられる。
- ・先行き…引き続き復興関連需要と新車販売のエコカー補助金効果が見込まれるほか、春物の動きに期待がある。反面、風評被害や原油価格の高騰、高速道路無料措置終了など懸念材料もみられる。
- ・総 合…先行き懸念はあるものの、現状の改善幅が大きいことから「復興関連を中心に持ち直しの動きが続いている」と判断される。

【調査結果のポイント】

(1) キーワード

- ・プラスのキーワード
…復興需要（現状、先行き）、エコカー補助金（現状、先行き）
- ・マイナスのキーワード
…低価格志向・買い控え（現状、先行き）、原油価格高騰（現状、先行き）、天候（現状）

(2) 現状判断（3か月前との比較、方向性）

- ・現状判断DI「53.6」（+6.4）は、5か月ぶりに前月を上回り、景気判断の基準となる50を5か月ぶりに上回った。
- ・家計動向は、長引く寒さが客足や春物の動きに一部影響したほか、低価格志向や原油価格高騰の影響など厳しさもうかがえる。一方、一部で復興関連の需要が続いているほか、年度替わりの季節需要に動きがみられ、エコカー補助金効果等で新車販売が好調である。DIは「52.3」（+9.3）と5か月ぶりに前月を上回り、景気判断の基準となる50を8か月ぶりに上回った。

- ・企業動向は、原油価格の高騰や大手部品メーカーの工場閉鎖及び半導体大手の会社更生法申請による影響が一部にみられる。一方、為替相場がやや円安に振れたことから製造業に改善の動きがみられるほか、震災復興関連で引き続き建設や住宅、飲食などに動きがみられる。DIは「51.3」（+0.1）とほぼ横ばいながら2か月連続で前月を上回り、景気判断の基準となる50を10か月連続で上回った。
- ・雇用動向は、一部で求人数の減少傾向や求人広告の伸び悩みなど、雇用環境に弱さがうかがえるものの、建設など震災復興関連を中心に求人の動きが堅調に推移している。DIは「66.7」（±0.0）と横ばいで、景気判断の基準となる50を9か月連続で上回った。

（3）先行き判断（3か月先の見通し、方向性）

- ・先行き判断DI「49.1」（▲1.3）は、2か月連続で前月を下回り、景気判断の基準となる50を3か月ぶりに下回った。
- ・家計動向は、一部で引き続き復興関連の需要が見込まれるほか、春物の動きやエコカー補助金効果の継続に期待がある。一方、長引く風評被害や原油価格の高騰、高速道路無料措置終了など不安材料が多いことに加え、低価格志向は変わらず、消費への影響が懸念されている。なお、前年の震災による反動はプラスマイナス両面の動きが想定されている。DIは「46.9」（▲1.3）と2か月連続で前月を下回り、景気判断の基準となる50を23か月連続で下回った。
- ・企業動向は、建設や住宅、飲食などでは引き続き震災復興関連の動きが見込まれるものの、建設では資材や労務単価の高騰が懸念されている。一方、製造業では一部で受注・収益環境に厳しさがうかがえ、農業では風評被害の影響が続くことに懸念がある。DIは「51.3」（▲3.6）と5か月ぶりに前月を下回ったものの、景気判断の基準となる50を4か月連続で上回った。
- ・雇用動向は、震災復興関連を中心とした求人の動きに引き続き期待がうかがえるものの、求人求職にミスマッチがみられる。また、円高による工場閉鎖の影響や雇用調整の動きが一部にみられるほか、労働者派遣法改正など先行きに不安材料もあり、雇用環境への影響が懸念されている。DIは「59.5」（+3.5）と3か月ぶりに前月を上回り、景気判断の基準となる50を11か月連続で上回った。

以上

<添付資料>

- 調査結果の概要

<お問い合わせ先>

公益財団法人 東北活性化研究センター（担当：木村）
〒980-0021 仙台市青葉区中央2-9-10
TEL：022-222-3394 FAX：022-222-3395

【調査結果の概要】

1. 今月の基調判断

景気ウォッチャーの判断によれば、東北地域の景気は、復興関連を中心に持ち直しの動きが続いているとのことである。

2. 今月のDI※

(1) 現状判断（方向性）DI

3か月前との比較である現状判断DIは、「53.6」（+6.4）と5か月ぶりに前月を上回り、景気判断の基準となる50を5か月ぶりに上回った。

	23年												24年		
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
東北現状	48.9	16.8	23.5	35.7	52.8	59.5	49.9	47.8	50.4	49.8	49.6	47.3	47.2	53.6	
家計動向関連	48.2	15.3	25.2	36.6	52.3	59.6	46.6	44.4	48.9	48.4	46.7	43.9	43.0	52.3	
企業動向関連	50.0	18.2	23.1	36.5	59.9	57.5	52.5	52.6	50.0	50.6	51.3	50.0	51.2	51.3	
雇用関連(参考)	51.2	23.8	13.6	28.6	42.9	63.1	66.7	60.7	60.7	57.1	65.5	64.3	66.7	66.7	

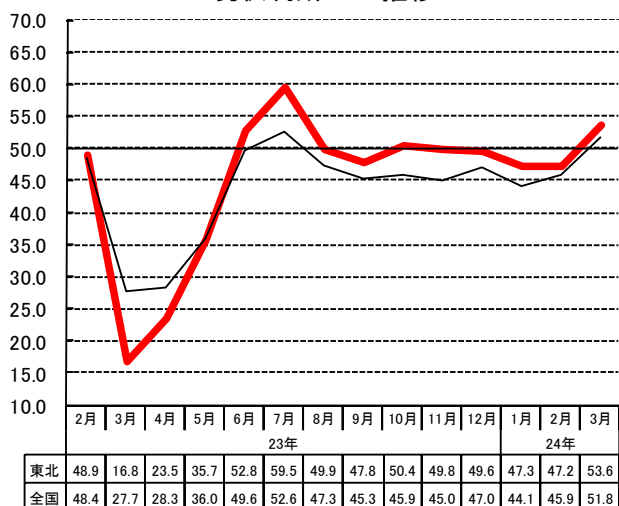
(2) 先行き判断DI

3か月先を予想する先行き判断DIは、「49.1」（▲1.3）と2か月連続で前月を下回り、景気判断の基準となる50を3か月ぶりに下回った。

	23年												24年		
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
東北先行き	47.6	21.1	36.7	45.4	49.2	51.0	48.6	46.7	49.4	46.6	47.2	50.9	50.4	49.1	
家計動向関連	47.4	20.7	36.1	43.5	47.1	47.4	45.4	45.3	49.6	45.7	44.3	48.4	48.2	46.9	
企業動向関連	46.2	19.6	39.1	47.3	53.3	56.3	54.4	49.3	45.6	46.3	51.3	54.3	54.9	51.3	
雇用関連(参考)	51.2	26.2	36.4	54.8	56.0	64.3	59.5	51.2	54.8	53.6	58.3	60.7	56.0	59.5	

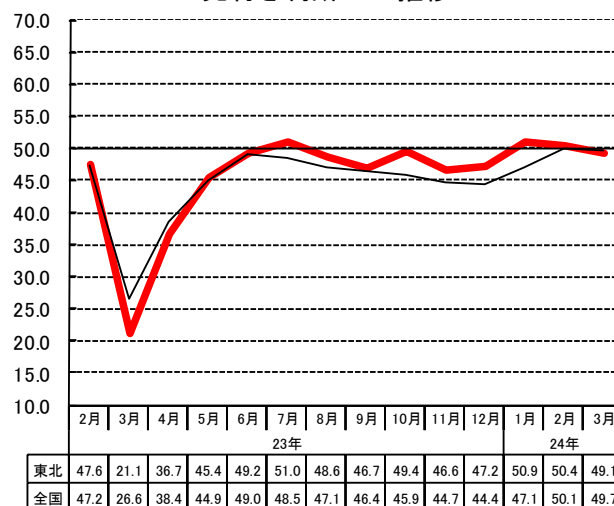
※DI（Diffusion Index）について…50を基準とし、50を超えると景気が良い方向にあることを示す。

現状判断DIの推移



— 東北 — 全国

先行き判断DIの推移



— 東北 — 全国

3. 調査の概要

調査期間 平成24年3月25日～31日

回答者数 200/210名、回答率95.2%（全国1,858/2,060名、90.7%）

4. 特徴的と思われる判断理由（ウォッチャーのコメントから抜粋）

（1）現状判断理由

○「良くなっている」

（旅行代理店）…前年に中止となった企業、団体から旅行申込があり、販売量は2年前を上回る水準まで回復している。

（設計事務所）…住宅の建替えや工場の増築及び建替えなど、震災に関連した仕事が続いている。また、今まで取引したことのない所や何年も取引していない所から仕事の依頼が入ってきている。

○「やや良くなっている」

（商店街）…2月のやや悪くなっている状態は脱した感がある。例年より天候の回復は遅いものの、最近消費者が時節の催し物に反応するようになっており、売上、来客数共に前年比プラスとなっている。

（百貨店）…東日本大震災があったため前年との比較は困難である。2年前との比較では催事、セールを除いても2けた近い売上増があり、景気の好調さは続いている。前半は気温が低く春物の動きが鈍かったが、後半は気温も上がり動きが出てきている。物産展は相変わらず好調である。

（スーパー）…前年は震災の影響で、営業できない店舗と震災特需のあった店舗があり、前年との比較はできない。2年前や実数値の推移と比較する限り、1品平均単価はほとんど変わらないものの、来客数の伸びは良くなっている。

（乗用車販売店）…現行のエコカー減税終了前の駆け込み需要とエコカー補助金制度の復活により、好調である。

（白衣・ユニフォーム専門店）…年度末ということで予算消化等もあり忙しくなっている。ただし、例年に比べると新入社員の数が少ないようで、制服の追加が少ない。

（都市型ホテル）…震災復興特需が続いており、個人利用の宿泊やレストランの売上も順調であり、法人利用の一般宴会も2か月先まで前年の売上を上回る予約状況となっている。

（通信会社）…入学シーズンを前に財布のひもも緩んでいるようで、携帯電話の契約数も通常月の20%増となっている。来客数も多くなっている。

（テーマパーク）…復興支援ムードの高まりにより、復興ツアーの団体客が増加している。また、被災地にお金を落とそうということで、商品購入の際も被災地産のものを探して購入している様子が見られる。

（食料品製造業）…震災復興における特需的な利用がある。特に一部店舗では、夕方以降、震災復興の応援で近隣のビジネスホテルに泊まっている人たちが徒歩で飲食に訪れる姿が多く見られる。なお、土産需要は前年を多少クリアした程度である。

（経営コンサルタント）…円相場の落ち着きが下請型製造企業の採算性を好転させつつある。

（人材派遣会社）…季節需要が各業界で強く出ており、予測通りの繁忙が訪れている。人材へのニーズもそれに伴った動きが見られる。

（職業安定所）…新規求人が震災とは別の要因で増加していることに加え、求人者の求人意欲が上向きになっている様子が見える。

○「変わらない」

（スポーツ用品店）…大雪の影響か客足が鈍くなっており、単価も下がっている。

（百貨店）…前年の異動シーズンに震災があったため、今年にまとめた形での異動の動きがあり、それに伴う記念品、餞別、返礼などのギフト需要が多いのと、卒業、入学、就職、新生活準備などのオケーション対応の動きだけが目立つ。寒さが抜けず、春物の購買行動は鈍い傾向にある。

（スーパー）…前年の東日本大震災の影響が大きく出ている。被災地域では前年は営業していない店舗が多かったため、200%近い実績をあげている。一方、被災していない地域では、前年の特需の影響が大きく、90%台で推移している。

（家電量販店）…家電製品すべてにおいて単価の落ち込みが加速しており、数量も伸びないため、売上

の確保に苦戦している。

- (ガソリンスタンド)…ここ半年、販売価格の低迷が続いている。販売数量の回復が思わしくないため、販売価格を下げてボリュームを出したいのだが、そのため収益が低迷し、業績を押し下げている。
- (都市型ホテル)…送別会シーズンであることもあり、宴会、レストランは高稼働している。それに伴い、宿泊も単価は低いものの稼働率は上がっている。ただし、期待された婚礼は、予定件数に届かず、1件当たりの人数も少ないため、予算には届いていない。
- (通信会社)…前年以上の人事異動があったため、消費者の加入動向も上向いている。消費者の購買意欲が強かった3か月前とほぼ同様の加入状況まで持ち直してきている。
- (美容室)…ガソリンや灯油の価格も上昇しており、客も節約しながら生活しているため、美容室に通う回数も減らしているようである。
- (住宅販売会社)…完成内覧会における新規来場者数の割合がかなり低い。受注についても、新規客ではなく、既存管理客が時間をかけて契約に至っている。
- (一般機械器具製造業)…自動車部品については、自動車メーカー各社が増産体制に入っており、受注量は増加傾向にある。加えて、為替相場がやや円安に動いたこともあり、経営環境も改善されてきている。
- (建設業)…高速道路や海岸防潮堤、防波堤などの復興工事が継続的に発注されている状況である。
- (金融業)…半導体大手の会社更生法の申請と大手電子部品メーカーの工場閉鎖による影響が出ている。
- (飲食料品卸売業)…依然として、復興の拠点となる都市部や内陸部においては、飲食店向けの出荷が好調である。
- (新聞社[求人広告])…本県は復興需要の恩恵を受けていない。求人広告の申込は、震災後の前年同時期との比較でも増えていない。
- (職業安定所)…建設業で震災復旧のための求人が増加している。新規求人数は前年同月比で大幅に増加し、11か月連続での増加となっている。

○「やや悪くなっている」

- (スーパー)…車が足代わりとなっている地域であるため、原油の高騰によるガソリンの値上がり在家計を圧迫し、食品の消費が抑えられている傾向がうかがえる。前年は災害があり比較はできないが、ここ数か月の単価は確実に下がっている。そのため、特売等のより一層の低価格で消費者は店舗を選択している。
- (衣料品専門店)…今月に入りようやく春らしい気温で推移する日が出てきているが、前月までの冬の気候の影響もあり、春物の立ち上がりが例年と比べ2～3週間ずれ込んでいる。
- (酒類専門店)…商売を持続させていくため、ばらで注文するなどの対策を講じる店も多い。あまりに我慢の時期が長すぎて耐えきれない店も出てきており、年度末という節目に閉店する店も少なくない。
- (輸送業)…燃油の高騰、値下げの要請、物量の減少など厳しい状況にある。

○「悪くなっている」

- (スーパー)…原油高に伴うガソリンの値上げ等により、客の買い回り傾向が弱くなっている。また、低価格志向が強まり、競合他社においてもデフレ価格がみられる。
- (酒類専門店)…東日本大震災から1年が経過し、地元の景気に悪い影響が出てきている。地元の仕事が無いため、事務所や営業所の閉鎖、県外への移動などが目立ってきている。来客数の減少に加え、消費者の生活防衛意識は一層高まっており、客単価も下がっている。

(2) 先行き判断理由

○「良くなる」

- (衣料品専門店)…現在、高単価商品の売行きも良く、来客数及び単価が上がっている。この動きは、クールビズが始まって継続するのではないかと予想している。

(飲食料品卸売業) …復興土木事業も本格化し、作業関係者ら多くの方が県外から流入する。宿泊の拠点となる地域では飲食店向けの需要が更に伸びることが予想される。

○「やや良くなる」

(百貨店) …震災特需のカテゴリーは厳しいが、他部門は引き続きやや良くなることが予想される。豪雪により春物の動きは鈍いものの、気温の上昇により一気に上がってくるとみている。販売適時は短いとそのタイミングを逃さない準備や体制を確立していきたい。

(コンビニ) …売上は月を追うごとに確実に上昇している。買上点数や客単価も伸びており、なかでも、客単価の伸びは良く、景気の明るさを実感している。今後もこのような好調が続くとみている。

(乗用車販売店) …エコカー補助金制度の効果とエコカー減税延長を受けて、新車需要は安定推移が期待される。

(遊園地) …ゴールデンウィークのカレンダーまわりが良いこと、前年激減した学校、団体が戻ってくる見込みであることから、若干の回復が期待される。

(木材木製品製造業) …住宅部材の需給バランスが改善され、価格が適正水準に向かうとみている。

(広告業協会) …消費動向も改善してきており、今後流通関係の出稿が見込まれる。また、住宅関係も県外のメーカーから展示場への出展などの引き合いが多くなってきている。太陽光や再生エネルギーなどの住宅への取り込みなどをセールスポイントに進出を図っている。

(人材派遣会社) …求人件数が増えているが、求人をかけても募集した人数に満たないケースが増えてきているため、今後も求人活動は続くとみていることから、景気はまだまだ上向きが続くと予想している。

(職業安定所) …新規求人は増加基調が持続している。特にフルタイム求人よりパートタイム求人の増加幅が大きい。これは雇用情勢改善時に見られる特徴である。また、平成 25 年 3 月卒の大学等新卒者向け求人の受理が始まっているが、前年同月比で 4 割増加しており、滑り出しは順調である。

○「変わらない」

(医薬品販売店) …健康関連商品の動きは悪くないが、化粧品などの美容関係は控えめである。普通であれば 1 か月たたないうちに次のものを買いに來る化粧品なども、1 か月以上たたなければ買いに來ない。雑貨も必要なもの、安いものに集中しており、売上を上げるのは難しい。こういった状況はなかなか変わらないとみている。

(百貨店) …春物衣料のずれ込みが予測される。クールビズなど節電に対応した商品の需要は一巡した感があるため、エコ関連の新製品などの動き次第になるのではないかとみている。

(コンビニ) …来客数は予想を下回っており、鈍化してきている。年度替わりの時期だが人の動きに大きな変化はないとみている。ただし、高速道路の無料措置が今月末で終了するため、一般幹線道路沿いの店舗では客数増が見込める。

(衣料品専門店) …11 月以降、気候が 2～3 週間ずれ込んだ状態が今月まで続いているが、客の購入モチベーションは徐々に上がってきているので、平年並みの気候に戻ることを期待している。

(家電量販店) …建設、建築関係の客からは仕事が増えたという話も聞くが、農家の客からは将来の見通しに対する不安が聞かれる。今のところは復興需要もうかがえ、電力会社からの賠償金を見越して買物をする様子も見られるが、そのような状態がいつまで続くかは不透明である。

(観光型旅館) …休前日や連休に客が集中し平日は極端に予約が少ない状況は、今後も続くことが予想される。

(都市型ホテル) …大手電子部品メーカーの関連工場閉鎖の影響が、全県にわたって響いてくるのではないかとみている。唯一の救いはデスティネーションキャンペーンにより東北に目が向けられていることである。

(農林水産業) …風評被害による価格低迷が心配される果物は、前年同様先行きが見えない。これでは、生産資材に資金を回す余裕もない。

(建設業) …復興需要を受け、業界としても一定の受注量は継続的に確保できると想定しているが、一方で資材や労務単価の高騰が顕著になりつつあるなどの不安要素もあるため、総合的な景気は横ばいで推移するとみている。

(企画業) …住宅の復興需要は盛り上がりを見せているものの、当方が顧客とする住宅会社は規模が小さく供給量が少ないため、変わらない。ただし、潜在需要はまだ続くとみている。

(金属工業協同組合) …見積り依頼は増加傾向にあるものの、短納期、品質等が厳しいことに変わりはなく、受注単価もコストダウンにより非常に厳しくなっている。そのため、売上や収益の増加には結び付かない。

(人材派遣会社) …労働者派遣法の改正により、人材サービス業界は縮小傾向にある。企業側も柔軟な人材配置に窮し、求人求職のミスマッチは更に広がるのではないかと懸念している。

(職業安定所) …雇用調整をしている事業所が依然として多く、新規求人が大幅に増加するような要因は見つけにくい。

○「やや悪くなる」

(百貨店) …3～4月上旬は厳しかったものの、その後消費が急回復した前年と比較すると、今年はそのまでの実績確保は難しいとみている。また、原油価格上昇の影響が消費に出始めている。

(スーパー) …前年4、5月も東日本大震災の影響が大きくあった月であり、グロサリー、生鮮とも商品の仕入に苦労し、チラシ販促も中止していた。また、一部商品を除き、売場に並べれば通常価格で売れた月であった。一方、被災地域の店舗は前期営業していない店舗の売上がそのままオンになる。会社全体では若干のマイナスが予想される。

(衣料品専門店) …クールビズの浸透により、年々スーツの需要が減少しているため、単価ダウンによる影響が出てくるとみている。

(乗用車販売店) …ガソリンの値上がり傾向に歯止めがかからないことや、最需要期である3月の反動、新型車効果の減少などから、今後は景気が若干落ち込むのではないかと予想している。

(白衣・ユニフォーム専門店) …夏物商材は今年もクールビズで引き合いがあることが予想されるが、単価が安いことと過当競争気味のため、利益確保は難しい。

(観光型旅館) …依然として続く放射能汚染の風評被害、復旧されない幹線道路、高速道路の無料措置終了の影響など、懸念材料が多く、客は戻らないのではないかと危惧している。

(観光型旅館) …予約が不調である。予約客数は減少傾向にあり、今後ますます厳しい状況になることが予想される。東日本大震災の被災地3県に注目が集まる一方、その他の県には目が向けられない懸念がある。

(一般機械器具製造業) …自動車部品については、グローバルな競争の激化による販売価格の低下と、新規引き合いに対応するための技術者の増員により、収益は悪化することが予想される。

(輸送業) …海上コンテナの外国航路が4月上旬で廃止となることが決定し、代替輸送の検討に入っているが、かなり厳しい状況が予想され、地域の輸送形態が一部変更されることもありうる。4月からは高速道路の無料化措置も廃止となることから、業界としては厳しいというより、苦しい状況が予想される。

(新聞社[求人広告]) …円高の影響で、県内の大手電子部品メーカーの関連工場の閉鎖が続いている。新規雇用が伸びないばかりか、失業が社会問題化しそうである。

○「悪くなる」

(テーマパーク) …ガソリン高の影響により、レジャーの自粛ムードが懸念される。また、資材関連の値上げも予想され、収益面でも更に厳しくなることが予想される。

東北地域に関する解説は、当センターの責任でまとめたものです。

以上